

令和6年度 消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）都道府県等成果及び評価  
(令和5年度補正予算繰越分)

都道府県等名：岡山県（特別交付型交付金）

目的	目標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	事後評価	
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		評価及び指導方針等	第三者の意見
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	達成	岡山県	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	達成	2,266,000	野生いのししのサーベイランス検査を促進し、監視体制の強化により、令和6年2月29日には県内で初めて豚熱感染を確認し、令和6年度末までに40例の感染を確認するなど、野生いのしの豚熱等浸潤状況を的確に把握することができた。野生いのしの感染状況は、県内全ての豚飼養農場に連絡し、注意喚起を行った結果、豚飼養農場では豚熱の発生を確認しておらず、豚熱等対策への体制構築へ寄与することができた。  【専門家の意見】 令和6年に県内の野生イノシシで豚熱陽性が発見されて以来、これまで50例以上の陽性個体が発見されており、本事業での一つの成果と考えられる。またこのデータの蓄積は、野生イノシシにおける陽性個体の時系列推移や県内での浸潤状況の目安にもなりうる。この情報は県内養豚農家に対して、危機感を高め、防疫に対する意識を強める効果もあると考えられる。また、本事業で確立したスキームは豚熱だけではなく、その他の豚に対する伝染病についても応用可能であり、事業の継続と拡張も必要と考える。	県内で、野生イノシシの豚熱ウイルス陽性事例の報告が相次ぎ、養豚場発生リスクが高まる中、農場での発生が防止されてきており、県及び養豚場並びに関係者が連携しての防疫対策が十分機能していると判断し、高く評価できる。関係者で豚熱情報を共有し、サーベイランス強化及び農場における飼養衛生管理基準遵守を将来にわたり継続することが、アフリカ豚熱に対する唯一の防疫対策につながる。一方、豚熱ワクチンは、養豚場でのワクチンブレークなどに配慮し、養豚場の位置やデータが増えてきた野生イノシシ陽性の確認地点を踏まえた野生イノシシへの経口ワクチンの効果的な活用も必要と考える。防疫対策は、養豚場従業員も含め関係者が対策を十分理解したうえで継続することが重要であり、今後も県の指導・啓発をお願いする。
総 計・総合達成度			総合達成率 達成 総合評価 適正					2,266,000		